

〈〈大学礼拝〉〉

大学礼拝の意味

東北学院の建学の精神は、「神を畏敬し、隣人を愛する」ことを教える聖書を土台としています。例えば、聖書の言葉「主（神）を畏れることは知恵の初め」（旧約聖書・箴言1章7節）、「（神に起源する）真理はあなたたちを自由にする」（新約聖書・ヨハネ福音書8章32節）「地の塩・世の光」（マタイ福音書5章13-16節）が各キャンパスの図書館に掲げられています。

大学における研究と教育の業（わざ）が恣意的（身勝手）なものではなく、また、特定の人や集団、民族や国家の利益のためのものではなく、人類の文化と福祉に貢献するものとなるのは、私たちひとりひとりが、神の前における人間の平等とかけがえのなさを相互に認識するときです。その認識を得るための有力な場が大学礼拝です。永遠なる存在との邂逅の場である礼拝を通して自らの有限性を学ぶのです。人間の真の謙遜さは礼拝に起源します。大学礼拝は、東北学院大学の建学の精神と出会う教育の場なのです。

1886年に創設されて以来、東北学院の創設者と本学の歴史を担ってきた信仰と学問の諸先達は、戦争中のキリスト教教育の困難な時代をも含めて、133年の長きにわたって礼拝を大切にし、一日のうちの最も良い時と場所を神に捧げてきました。今日の東北学院大学の構成員である学生諸君も、礼拝に出席し、これまでの歴史と伝統に輝かしい一頁を加え得る権利と義務のあることを誇りに思ってください。（宗教部）

東北学院大学「学位授与の方針」

本学は、所属する学部における卒業所要単位を修得し、次の学修成果が確認できた者に学士の学位を授与する。

1. 現代をよく生きることについて、キリスト教の教えをふまえた考察ができる。

聖書がもつ今日的意義を理解し、それらをふまえながら、現代社会の中でよく生きることについて、自分の考えを論じることができる。

2. 高度な知的活動に必要な汎用的諸技能・能力及び英語力を活用できる。

高度な知的活動の基礎となる汎用的諸技能・能力（コミュニケーション力、論理的・批判的思考力、情報リテラシー、数理リテラシーなど）及び英語力を身につけ、活用することができる。

3. ものごとを広く多様な視点から認識し、異なる認識・思考方法や価値観に理解を示すことができる。

自己や世界を歴史・社会・自然など多様な視点から認識し、異なる認識や思考方法、異なる価値観に理解を示すことができる。

4. 専攻分野の専門的知識とそれを支える認識や思考の方法を説明できる。

専攻する学問分野における基本的知識、その学問分野に固有の認識や思考方法について、その概要を説明することができる。

5. 課題を発見し、その解決のために学修成果を総合的に活用できる。

地域の課題をはじめとする様々な具体的課題を見つけ、それまで獲得した学修成果を総合的に活用することでその課題を解決することができる。